

電気通信大学 平成18年度シラバス

授業科目名	コンピュータリテラシー		
英文授業科目名	Computer Literacy		
開講年度	2006年度	開講年次	1年次
開講学期	1学期	開講コース・課程	夜間主コース
授業の方法		単位数	2
科目区分	専門科目-専門基礎科目-必修科目		
開講学科・専攻	情報工学科		
担当教官名	大山 恵弘		
居室			

公開E-Mail	授業関連Webページ
oyama@cs.uec.ac.jp	http://ipl.cs.uec.ac.jp/~tamura/literacy2006/

【主題および達成目標】
<p>筆記の代わりにワープロ、電話の代わりに電子メールなど、いまやコンピュータは日常生活の文具として位置づけられている。情報工学科の課程では、その扱いがより専門化されることになる。このことを踏まえて、コンピュータを正しく、効率よく活用するために必要な基礎知識を学習し、演習を通じてより確実なものとする。また、簡単なプログラムの作成例を通して、コンピュータの働きの基礎概念とソフトウェア作成の基礎概念を理解する。</p>

【前もって履修しておくべき科目】
工学基礎演習第一（1学期同時開講）

【前もって履修しておくことが望ましい科目】

【教科書等】
必要に応じて指定する。

電気通信大学 平成18年度シラバス

【授業内容とその進め方】

工学基礎演習第一と併せて授業を進める。

前半を計算機入門、後半をプログラミング入門とする。計算機入門では、オペレーティングシステム、Web、エディタ、ファイルシステム、電子メール、ネットワーク、ウィンドウシステム等の基礎的事項について課題演習を行ないレポートを提出する形で進行する。プログラミング入門は、プログラムの形、コンパイルと実行、判断と繰り返しの効用等について簡単な例題を示し、知識習得を確実にするための演習を行なう。オペレーティングシステムとしてUnixを使い、プログラミング言語には、C言語を用いる。

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

評価方法：レポート(工学基礎演習第一と共通)により評価する。工学基礎演習第一と併せた評価とする。

評価基準：計算機入門に関しては、オペレーティングシステム、Web、エディタ、ファイルシステム、電子メール、ネットワーク、ウィンドウシステムの基礎的事項について理解しており、これらに関するコンピュータの基本操作ができる。

プログラミング入門に関しては、プログラムの形、コンパイルと実行、判断と繰り返しの効用について理解しており、例題に対して適切なCプログラミングができる。

【オフィスアワー：授業相談】

特に設けない。授業に関する質疑応答は受講学生全員にとって有益だと考えるので、原則的には、授業時間内あるいは授業時間の最後に設ける質疑応答時間に質問すること。個別の相談にも適宜応じる。ただし、電子メールでアポをとること。

【学生へのメッセージ】

コンピュータを使う最初の科目である。ここで良い癖をつけるようにしよう。

欠席しないこと、コンピュータを使うことを億劫がらないこと、演習課題はすべて実行すること。

【その他】